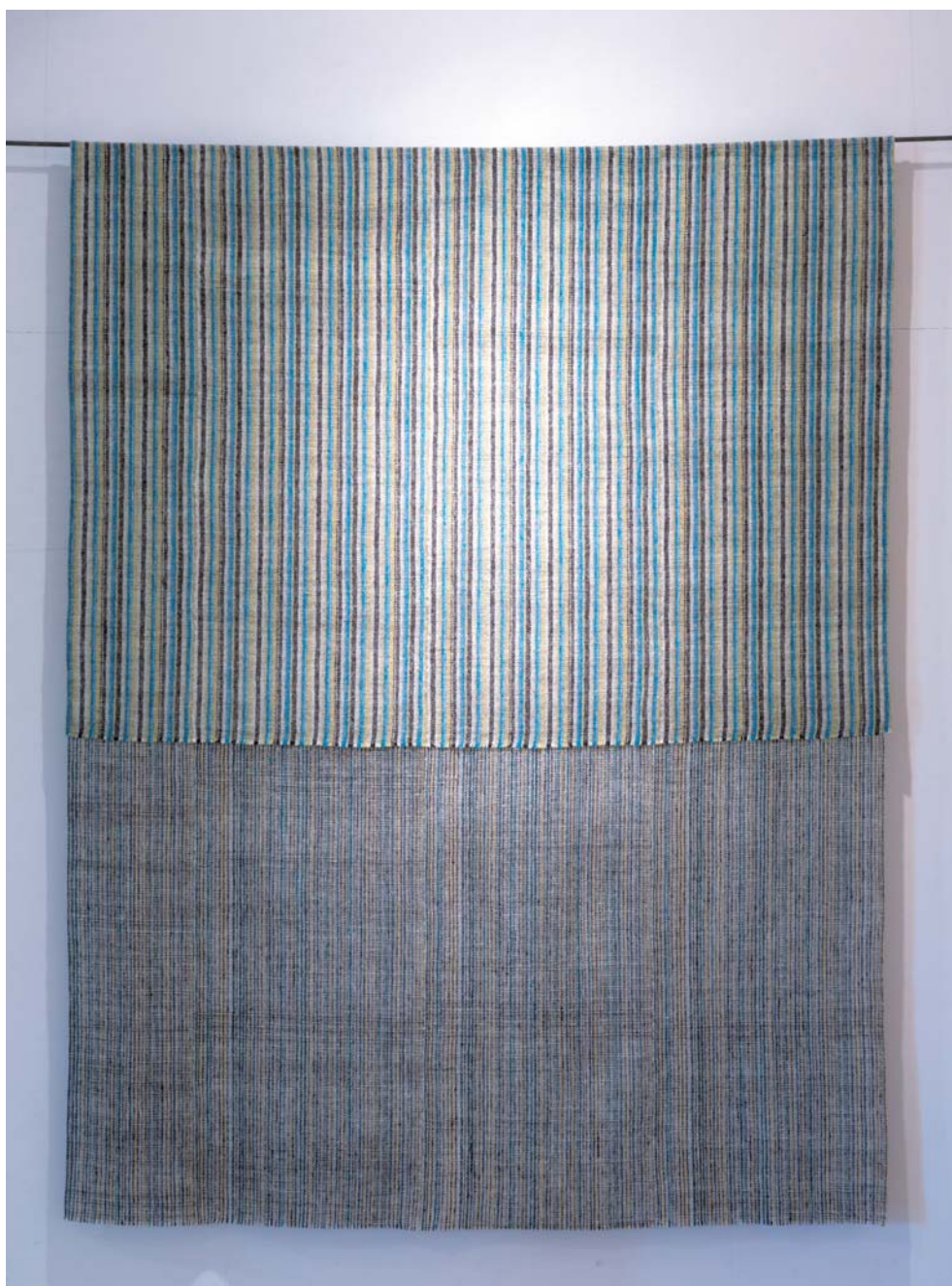


造 形

青木千恵美



タイトル：毛布#57/48 Chev サイズ：150×198cm

素材：羊毛（チェビオット種），天然染料（刈安 コチニール），合成染料（酸性染料）

技法：紡ぎ，染め，織り，縫い 制作年：2015年

織物の設計

経糸番手 3.4～5.0 経糸密度 4.7本/1cm

緯糸番手 4.2～4.6 織組織 平織

素 材

英国産チェビオット種、異なる個体の羊毛、2種を素材とした。どちらも比較的繊維は太く触感はシャリシャリとして硬い。色は白、グレー、と異なっている。

繊維の太さを生かし、ふっくらと糸に紡いだ。それから数年が経過し、今、改めて素材と向き合い、アプローチを再開した。

グランドとなるイメージ

素材から得られる「同じ」と「異なり」を糸口とし、これらから導かれることを織り合わせ、構成してみたいと考えた。

「同じ」：羊の種類、繊維が太めであること
触感にシャリ感があること。

「異なり」：色彩

制作過程

アプローチの再開として、白色の一部を色相、色調が共に対比するよう染色し、「異なり」の要素をさらに加えた。

天然染料、刈安のアルミ媒染から明るい黄、コチニールの鉄媒染から黒に近い紫を得た。紫の色調は思った以上に深く、強く心魅かれる染め上がりとなった。

そこからさらに対比を強める色を求め、合成染料により、鮮やかな青系を染めた。

経糸の設計における試行錯誤から、「同じ色彩から異なるストライプを構成し、並べる」アイデアが浮かび上がった。

そこで、上部「明快」に対して、下部「混沌」のイメージを合わせ、どちらにもグレーの糸を素のまま、経糸をつなぐ色として織り込んだ。

上下2枚ともに幅47cm、長さ560cm、440cmに織り上げ、縮絨後、裁断して並べ、縫い合わせた。

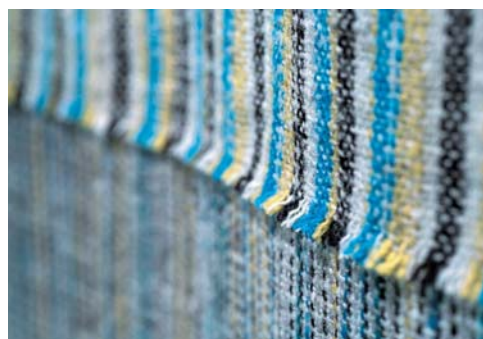
上下の織物が出会う部分は、緯糸をわずかにほだき、イメージの対比を強めた。

天然染料と合成染料

天然染料による染色の面白みは、染め上がりの予想に幅があり、時に予想外の発色を得ることにある、と感じている。

染色後の色彩を受け入れることから、配色のインスピレーションを得ることができる。

そこで、初期の段階では天然染料を、次の段階では色相、色調を調整しやすい合成染料を、と組み合わせることを意識し、取り入れている。そうすることで、それぞれの染料の効果が発揮されると考えている。



毛布#57/48 Chev 部分

ま と め

全体にシャープな印象となり、硬い触感と色彩は馴染んでいるように感じられる。硬い触感から淡い暖かみのある色調はイメージしにくく、導かれなかった。と改めて思う。

今回の制作の過程にはライブ感があり、緊張感もまた、心地よく感じられた。

目の前の変化、現象に一喜一憂していると、グランドとなっているイメージを手放すことになりかねない。との思いが度々自覚され、素材と自身を冷静に観る、もう一人の自分がいた。

素材に対する行為の結果、素材の状態、形態は変わってゆく。しかしその「素材らしさ」は、変わることなく在り続ける。その存在感、そこから制作のイメージは広がり、紡がれ、繋がってゆく。

北野敏美



作品：「桌上的エスキース」 サイズ：(110×100cm) 素材：洋紙，和紙，インク
技法：銅版画（エッチング・アクアチント） 制作年：2014

1) 作品のイメージと構成

制作のための机にはスケッチブックが開かれている。そこには鉛筆の走りがきで簡単なプランが描かれている。また集めてきたいろいろなものが置かれている。つる状の植物、乾燥した木の葉、様々な写真、雑誌の切り抜き、花束、iphone、鍵、メジャー、鉛筆、雑誌などである。雑然としたそんなものが織り成す光景にヒントを得て作品に向かう。

構成は右と左に大きく画面を二分割して組み合わせる。日頃、散策の中で得られる風が吹き、水が流れる空間を意識しバックとして用いた。左面のシルバーにはデカルコマニーの斑紋を散らし、英字、木の葉、鉛筆などをあしらっている。右面には光と影をイメージし白と黒とそれをつなぐグラデーションで色

を付けた。粘性のジェッソと筆を用い、筆跡を残し、飛沫を飛ばし、型紙を貼り付け、豊かな画面の表出を願った。二つの画面が切り離されることがないように中央に凹凸をつけ繋いだ。さらに左右の画面を互い違いにして変化をつけてみた。

大きな空間の中に小版によるイメージを、刷り加えていく方法で作品に厚みをつけてみることにした。つる草、葉、写真、蝶などで版は四角だけでなく変形も使っている。

2) 技法に関わって

一般的には溝にインクを詰めて圧着させて印刷するが、それとは違った方法を試みている。右面は油分の少ないパンチのある黒を使い凹部に詰めた。その上から凸部に黒銀をやや油分を加え柔らかくしてローラーでのせて

一度に刷っている。凹凸版一度刷りである。そうすることによってデカルコマニーのわずかな表情をはっきりと画面に残すことが出来た。また右側は深い黒と明るい白を強調するために二度に分けて刷り合わせている。初めはローラーぼかしによる凸版刷りをし、しっかり乾燥させた後、模様版を黒と白をローラーぼかしで凸部にのせ重ね刷りをした。

3) 配色によせて

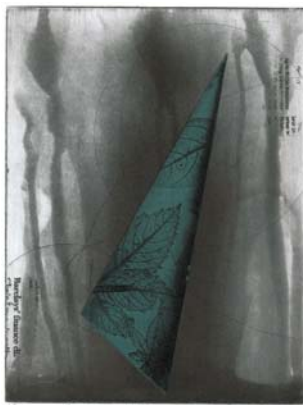
全体のイメージをなるべく彩度を下げてもめてみたいと願った。画面の青、黄土、グリーンはすべて和紙の着彩ものである。和紙はプレス機の酷使に耐えるだけでなく油性インクとの相性も良くイメージをきちんと反映

させてくれることが嬉しい。

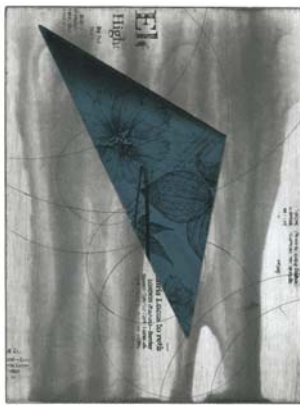
4) 展覧会

- ① 第6回上田市立美術館開館記念
山本鼎版画大賞展 入選
(会期：2015年2月21日から3月8日
会場：上田市立美術館)
- ② 第14回飯田下伊那の作家による
「現代の創造展」
(会期：2月12日から3月2日
会場：飯田市美術博物館)
- ③ 北野敏美版画展
(会期：4月23日から5月2日
会場：ギャラリー愚伶
東京都文京区本郷5丁目)

5) その他の作品



Flow-1427 24×18cm



Flow-1426 24×18cm



A View-1504 50×35cm



A View-1503 50×35cm



A View-1502 50×35cm



A View-1501 50×35cm

田中洋江



作品1 タイトル： 光
サイズ：240×170cm 2点
素材：ジュート ラミー ゴートヘア
技法：オリジナルテクニック
制作年：2013年



作品2
タイトル：光 ii
サイズ：73×53×5 cm
素材：ジュート ラミー
 ゴートヘア 板
技法：オリジナルテクニック
制作年：2014年



作品3

タイトル：光 iii

サイズ：73×53×5 cm

素材：ジュート ラミー
ゴートヘア 板

技法：オリジナルテクニック

制作年：2014年



作品4

タイトル：光 iv

サイズ：100×73×5 cm

素材：ジュート ラミー
ゴートヘア 板

技法：オリジナルテクニック

制作年：2015年

「あることとないことの間の問題」を大きなテーマに制作している。ジュート、ラミー等の繊維を染め、混色し、向こう側が透けて見えるほど薄く粗く構成することによって、布とも紙とも言える平面をつくり、これらに光をあてることで現れる影も含めて空間に展示したいと考えている。

作品1「光」で墨のシリーズに一旦区切りをつけ、2014年から色鮮やかなシリーズ(作

品2～4)に入った。光は、太陽光、月光、蝋燭や焚き火の炎、逆光、やわらかな光、鋭い光線など様々あり魅力を感じる。東日本大震災で苦しんで亡くなった動物たち、今も苦しむ動物たちを思い、自分なりに調べていくうちに、世界中の恵まれない動物たちの存在に気づかされた。彼らのために祈る日々が続いたことで「希望の光」がテーマとなっている。